

進撃異世界物語

天パ野郎

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

魔法・モンスターが当たり前に存在する世界で一人の少年が生まれた。

その少年の名はエレン・イエーガー。

自由を手に入れる為に冒険者になったエレンは、どんな仲間に出会いどのような生活を送っていくのか……………

目次

e
i
n
s
(ア
イ
ン
ス)

—
1

e i n s (アインス)

二千年前、世界は魔王軍により支配されていた。

世界は魔王を倒すために立ち上がり、力を合わせて魔王軍による支配から世界を解放した。

だがしかし、魔王は最後の力を振り絞り多くのモンスターを世界に残した。

その結果、魔王軍との戦いは続き、今も争いが絶えずにいる。

その為、世界は有志を集めている。

その名も『冒険者』。

俺、エレン・イエーガーは冒険者になるためにある場所へと訪れていた。

「あの……適性検査を受けに来たんですけど……」

「はい……分かりました。では、このカードに手を翳してください」

「え？翳すだけでいいんですか？」

「はい」

「分かりました……」

受付の人の言う通り、俺はカードに手を翳した。

「……………え？」

「……………どうかしました？」

「えつと……………とりあえずこれを見てください」

「……………狩人？」

「はい。先程狩人について調べてみたのですが……………どうやらあなたが初めてのようです」

「あはは……………そんなことあるんですね…」

「私もこんな経験初めてで……………なんと言うか新鮮ですね……………それでその職業の主な説明ですが……………」

「まあ俺が初めてだからないですよね……………」

「ははは。その通りです……………」

「……………ありがとうございます……………俺、もう行きますね……………」

「頑張ってください!! 応援してます!!」

受付の人がそう言って手を振ってきたので、俺もそれに反応して手を振った。

「狩人……か。まあ俺っぽい気もしなくはないけど……」

「キャッツ!!」ドテツ

やべえ……余所見してたら女の子とぶつかっちゃった……。

取り敢えず謝るか……。

「あー……ごめん……大丈夫か？」

「大丈夫です……心配してくれてありがとうがとうございます……」

「そうか……怪我してなくてよかったよ」

「……え？」

「……何か変なこと言ったか？」

「あ、いや……何でもないです……」

「……? まあいいや。お先に失礼する」

「ちよ、ちよつと待っててください!!」

俺が帰ろうとした途端、女の子は突然大声を出して腕を掴んできた。
まだ怒っているのだろうか。

「その……私家がなくて……一日だけでいいので泊めてもらえませんか？何でもしますから!!」

「え？ちよ、え？」

「……駄目……ですか？」ウルウル

「いや、別に駄目って訳じゃないけど……俺の家……お前と同じ年くらいの子が二人住んでるけど……大丈夫か？」

「大丈夫です!!泊まらせていただけののなら何でも!!」

「はあ……分かった」

「……!!ありがとうございます!!」

「つていうか家がないなら俺の家で住んでもいいぞ？」

「そ、それは流石に迷惑じゃ……」

「迷惑ではないな。家事さえやってくれるなら俺としては文句なしなんだが……つていうか名前聞いてなかったな」

「名前……ですか？」

「おう」

「私の名前は……ひ、ヒストリア……ヒストリア・レイス……」

「そうか。俺はエレン・イエーガー」

「驚かないんですね……」

「驚いた方がよかつたか？」

「いえ……そういうわけじゃ……」

「ははは……冗談だ。それと、敬語はやめろ。妙に壁を感じる」

「分かりま……分かつた。そうするね」ニコツ

「ああ……そんじゃあ行くか……俺の家に」

そうして俺とヒストリアは家に向かつた。